

第4回 裾野市の教育のあり方検討委員会

議事録（要点筆記）

日時：令和2年2月4日（火） 15：00～16：45

場所：裾野市役所 402会議室

出席者：委員長 村山功 副委員長 湯山芳健

委員 横山碧 委員 三浦靖幸 委員 小野島洋子 委員 朝妻正昭

委員 山中なほみ

【教育委員会】

教育長 風間忠純 教育部長 杉山善彦 教育総務課長 勝又明彦

学校教育課長 荒井賢二 生涯学習課長 木原慎也

学校教育課課長代理 渡邊清 教育総務課課長代理 二ノ宮貴之

教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人 14名

1. 開 会

教育部長

ただいまから「第4回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。

どうぞよろしく願いいたします。

2. 教育長あいさつ

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。この教育のあり方検討委員会は、全5回の開催を計画し、今回は第4回というところです。これまでの3回の委員会におきましては、教育のあり方を考える上で、押さえておきたい視点というものを幅広く議論していただき、議論を深めていただきました。今回の委員会におきましては、皆様方に話し合っていたいただいたものを焦点を絞り、ご意見を伺いたいと思っております。それぞれの立場、地区の立場等もあるかと思いますが、教育のあり方の検討委員会である視点にたつて、自由に意見を出していただければと思います。

将来の教育のあり方、教育環境のあり方につきまして議論を自由にしていただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

3. 委員長あいさつ

皆さん本日もよろしくお願いいたします。これまで3回、皆さんそれぞれのお立場から色々な貴重なご意見をいただきまして、その委員の方ならではのご意見等を伺わせていただきました。この検討委員会は、裾野市の教育の来年、再来年ではなく、10年後或いは20年後の裾野の教育について考えるということが主旨です。10年後といいますと、例えば小学校6年生の子どもが大学を卒業する時期となります。かなり先の話ということが分かりますが、そうは言っても6年生の子が10年後、大学を卒業するときに、裾野市に帰ってきてくれるだろうか、その子が帰ってきて、さらに10年後、20年後、恐らくその頃には子育ての真っ盛りかと思いますが、そのときに、裾野市でどのような教育が受けられるのだろうかということのために、現状からスタートして、ご意見をいただいております。そういったことに関して、最終的には、当委員会として提言をするという形となりますので、これまで皆さんそれぞれのお立場から貴重なご意見をいただいております、是非10年後の裾野市の姿、20年後の裾野市の姿を考えながら、教育についてご議論をいただければと思っております。

本日はよろしくお願いいたします。

4. 協議事項

(1) これから目指す教育環境について

① これまでの議論・調査結果について

説明者：教育総務課課長代理

- ・各学校の強みと課題について
- ・教育のあり方に関するアンケートの実施とその結果について
- ・裾野市の教育のあり方検討委員会での議論
- ・新たな動向

トヨタ「コネクティッド・シティ」プロジェクトについて
GIGA スクール構想について

について説明

【意見等】

委員長

全ての報告を受けた後に議論をしたいと思いますので、ご意見等はそのときにお聞かせいただきたいのですが、事実関係でこの部分を確認しておきたいといったことがありましたら伺います。

そうしましたら、次の「学校再編成を考える大きな流れ」につきまして説明をお願いします。

② 学校の再編成を考えるべき大きな流れ

説明者：教育総務課課長代理

- ・新たな時代の学校教育
- ・児童・生徒数の減少
- ・施設の老朽化
- ・学校規模の現状
- ・部活動の現状
- ・学区と行政区

について説明

【意見等】

委員長 同様にこの点に関しても、また後でご議論いただきますが、事実関係で何か確認したいことはございますか。

委員 細かいことですが、授業時数の関係で小学校4年生から週29時間とありますが、英語は小学校5年生から週29時間かと思いました。4年からプラス1時間なのでしょうか。

事務局 4年生はプラス1時間となりますが、3年生と4年生はもともとの授業時数が違いますので、それぞれ1時間ずつ加わったときに、4年生では5年生と同じような時間数となってしまうことになります。

委員長 3・4年生が増えたのは、外国語活動が5・6年からおりてきたことによるものです。

そうしましたら、最後の「望ましい学校規模・学校配置の案」につきまして説明をお願いします。

③ 望ましい学校規模・学校配置の案

説明者：教育総務課課長代理

- ・学校規模・学校配置に関する要件の整理
- ・学校再編成の案
 - 再編案Ⅰ：現行政区ベース案（コミュニティ重視型）
 - 再編案Ⅱ：中学校大規模統合案
 - 再編案Ⅲ：単学級解消案（1学年2学級以上型）
- ・今後、学校の再編成を進める上でお願いしたいこと

について説明

【意見等】

委員長

最後に3つの案について説明がありましたが、この中から選んでくださいという話ではありません。これまでご議論いただき、色々な要件があがりましたが、基本的には全てが満たされるということはありません。お互いにバッティングするような要件もあります。それぞれにこの条件を重視したらどのような姿が可能なのか、その際には逆に無視され、あまり重視されない要件が出てきます。そういった組み合わせを具体的に考える際に、どういう形がいいだろうか、どういう要因を重視するのかということ具体的に考えるために、ここに3つの案がでていて考えていただければと思います。

皆さん、今のお話を聞いて、考えられる点がありましたら、先ずはあげていただきたいと思います。

最初のご挨拶のときにも申し上げましたが、10年後、20年後となりますと、20年後の裾野市の教育を受ける子どもは、まだ産まれていません。その子どもたちの代わりに皆さんがここで考えることとなりますので、どのような教育環境であればうれしいかという観点から、ご発言いただければと思います。

委員

学校再編案を3つ見させていただき、富岡地区が大きく変わるような案が大きいかと思いました。また、富一小と千福小と富二小、そして中学校の3校を1つにしたかどうかということですが、最初の資料にあった富岡中や富一小の先生方のご意見を見ますと、課題としてどちらにもあることは、校区が広いということで、既に今の時点でも校区が広いと、登下校に時間がかかることや、把握がしきれないということが課題としてあげられています。この再編案でさらに広がっていくような案が多いという印象を持ちました。そういった場合、例えばスクールバスを導入すれば、そのような課題も解消されると思ったところですが、こちらの再編案と先生方から出ている課題が逆行しているように見えたので気になりました。

委員長

案の全てが全部の条件を満たせるわけではありません。この場合は、校区の広さの点について目をつぶれば、各学年とも2学級となるような学校が出来ますという案です。その場合には、校区の広さを受け入れてでも2学級にしたいのかということをお願いされていることとなります。

今、言われたように色々な条件が変わってくると思いますので、子ども達が今のように自由に歩いて通学する、または保護者が送迎する以外に、例えば10年先となれば、もしかしたら自動運転のバスや、子ども達はそのスクールバスに乗っていくことも可能になるかもしれません。あまり現状の延長では、考えにくいこともあるかと思います。

委員

東地区は、3つの案とも東小と向田小を統合して、小学校1つ、中学校1つとなっています。以前、校長会で皆さんからご意見をいただいた際には、安全面を考えると、東中・深良中は、山の上に学校があるため、東小と向田小を統合する際には、向田小のある場所に東中を下ろしてきてはどうかという意見がありました。

また、今の東中の場所も使えなくなるわけではありませんので、東中が向田小のあたりとなれば、小学校のときには東小に通いますが、中学校は向田小のあったところに通うということで、行ったり来たりということになれば、公平感もあるかと、そのような意見もあり、このことは実現可能かと思えます。

委員長

規模の点は考えておりますが、設置場所については、あまり今回は検討していません。そういうような案で、どちらの場所にも学校が残るということになりましたら、地域の方の理解も得やすいということは、おっしゃるとおりかと思えます。そのような方法が取れば、少し軽視した要因がある中で、それが上手くフォローされるという点はあるかと思えますので、そのようなご提案はすごくありがたいと思えます。

今回はじめに、各学校のそれぞれの立場から自分たちの学校の強みと課題をあげていただきました。3回目の委員会では出ましたが、外から学校に期待することがある中で、学校を動かしている先生方の視点ということは、前回に多少出ましたが、なかなか出てこなく、そのあたりを今回はきちんと資料を用意していただき、非常にありがたいと思えます。

また、前回も言いましたが特に小規模の中学校では、全教科専任の先生が揃わない中で、子ども達が教育を受けるということについては、外から見える以上に、実際の現場の先生方にはかなりの負担が掛かっている点、或いは新学習指導要領がこれからはじまりますが、10年後には次の要領もスタートすることになります。その間にICTを各学校とも整備してという話になっていきますと、各学校にICTの得意な先生がいなくなかなかまわらない状況になるわけです。しかし、そういう先生も今のところ限られております。小規模の学校にはそういった先生が来ないとなりますと、小規模の学校が今以上に教育環境が恵まれなくなってしまう恐れがありますので、そういった点では先生方の規模も学校規模と連動しておりますが、これも一つの視点として是非入れておいていただきたいと思います。

委員

千福小は除きまして、向田小にしても、南小にしても、当時の経済成長期、裾野市が拡大時期において、色々な理由がある中でも、そういうようなことの背景で、色々と研究をしていった結果、小学校を新しく建設し小学校が増えてきたと思えます。しかし、今回の話は、その逆の方向での議論となりますので、ある面で増えてきた時の要素というものを十分に理解してもらえますと、次に行くときに説明はつけやすいのではないかと思います。特に小学校に関しては、子どもが小さいということで、一番心配することは通学の問題です。やはりそういう事情も踏まえて、通学路に関しては、

小学校の学区よりも中学校の学区が割合と自由に考えてもいいのでしょうか。

委員長 今回の第2案も小学校は通学の観点から地域に残すこととし、中学生でしたら、例えばバスで通学することも可能ではという意味で、中学校を主に統合してみてもどうかという案になっているかと思います。

また、中学を卒業すると高校に通うことになりますので、そのときは、公共交通機関や、場合によっては保護者の方に送っていただくなりして、さらに遠いところに通うことにもなります。そういう意味では、小中高とステップアップしていくということも一つの考えかかと思えます。

委員 特認校というのは、子どもの数が増えるのですか。

委員長 特認校としたから増えるというのは、また別問題であるかと思えます。しかし、少なくとも学区が限られている中で、その中の子どもが増えなければ、やはり特認という形で、外から来てもらう仕組みを取り入れたいということは普通の考え方ではありますが、実際にそれで来てもらうためには、何らかの仕掛け、そこへ通わせたいと思ってもらえるだけの特色が必要かと思えます。

例えば、小学校が地域と協力して、他の地域からも子どもが来たいというような学校ができれば、それは一つのアイデアかと思えます。

先程、県内自治体のICT環境の実績がありましたが、川根本町は、ICTに力を入れることで、まち自体の活性化と学校の活性化を図ろうと取り組んでおり、かなり環境が整備されていると思います。しかし、人口が増えたり、子どもの数が増えているかといいますと、その点は難しいところもありますので、想いは大変分かりますが、上手くいくためには何かそれなりの売りが必要かと思えます。

委員 通学の安全面が、特に小学校では重要となるわけです。そういう意味からしますと、海外では多くの子どもがバスで通学しています。地域にとっても交通手段がなくなり高齢化が進み、全ての部分で足の確保をどのようにするかということになりますと、小学校の通学、また高齢者の足の確保とをリンクさせて考えると助かるのではないのでしょうか。これから大勢が遠くに行くにしても安心して行けるという環境がもう少し整理されていけば理解を得られるのではないのでしょうか。

委員長 今回は教育環境の検討ですので、そのような環境にするためには、恐らく交通手段の整備もお願いしますという話になると思います。まちづくりの話の中で、こういう学校になってほしいということであれば、まちの交通手段の整備という話の中で通学の話も入ってくると思います。そういう観点は、そちらで議論していただくことになると思いますが、せっかくそのような形でスクールバスのようなものを整備するのであ

れば、それを地域の足としても利用できれば地域にとってもメリットではないかと思
います。

委員 難しい問題だと思います。学校の規模として一クラスの規模でも、やっていけないこ
とはありません。しかし、一クラスの人数が何人くらいとなるのか、例えば一クラス
10人程度ですと、子ども達の教育上、例として部活動について考えてみますと、須山
中ですと3つくらいの種類しかありませんので、色々な支障が出てくるでしょう。部
活動の数というのは、スポーツ少年団にどのくらい入っているのかという問題もあり、
一概には言えませんが、そういうことを考えますと、日本全国から見ますと裾野市は
それほど広くありませんので、そういう市域の中で、こちらの学校では部活の種類が
10も20もあり、こちらの学校では2・3しかないというような状況となっております。
ですから、1学級の生徒数がやはりある程度のところまでいった段階では考えなけれ
ばいけないかと思えます。

また、基本的には地域の中に学校があったほうが良いと思えます。そういう全体のこ
とを考えますと、子どものことや、部活動のことなど、今から何年後にそういう問題
が生じてくるのか、見えない部分があります。小中一貫校も良いと思えますが、単に
少ないから小中一貫校にするのかどうかということはあると思いますが、なかなか難し
い問題です。

委員長 子どもの立場では、部活動も大きな教育環境の一つですので、自分のやりたい部活が
ないということは、なかなか厳しいところがあると思えます。

委員 学校が無くなると遠くに通わせることを嫌い、居住地を変えてしまう等色々な流れが
出てくると思えます。

委員長 子どもに合わせて保護者に移動されてしまいますと、コミュニティの話も崩れてしま
います。沼津市では、隣の学区までは選べる扱いとなっておりますが、理由の一番が
部活であったりしますので、子どもにとって部活は大きな要因かと思えます。なか
なか全部は両立しませんので、今回1・2・3案と具体的な形で提示されてみますと、な
かなかこちらを取るとこちらを捨てなければならないということが、はっきりしてく
ると思えます。

委員 一方では10年後の教育環境ということ、老朽化ということを考えますと、老朽化の
対策はこうしていきますと、10年後にはこうしていきますと、老朽化対策が無駄に
ならないように、やはり結論は出しておくべきかと思えます。

委員長 確かに第1回の委員会の資料にあったかと思えますが、次の建て替えの時期が来るの

は凡そ10年後位かと思ました。そうしますと、今から5年先位には方針をはっきりと決めませんと建築計画が立てられないと思います。今回、子どもの教育環境ということで色々と考えなければいけない問題があるということが出てきて、その全てを両立させることは不可能であるというところは、はっきりしてきたと思いますので、残り5年の内に最終的な形を決めていきませんと、校舎の老朽化に追いつかないことになります。今回は、このようにしますという最終案を出すわけではありませんが、具体的にこのようなことを考えて、こういった範囲で物事を考えるというところまでは、進めていかなければいけないと思います。

したがって、もう少し具体的、或いは提示の3案以外も可能であるといった方向でご議論いただければと思います。

委員 もし、特認校を実施するのでしたら、市内で1校かと思います。3つの学校を特認校としてもあまり意味がないと思います。

委員長 それぞれが違う特徴が出せればということはあると思いますが、なかなかそういう選択は難しいかもしれません。

委員 複式学級とは何人以下となりますか。

事務局 小学校では、2の学年の児童で編制する学級の1学級あたりの児童数は、1年生を除き16人となります。一方、中学校の1学級あたりの生徒数は8人となります。

委員長 複式学級も良さはありますが、難しいところもあります。複式だから全て駄目であるということではなく、先生がこちらの学年を教えている間は、片方の学年は自分たちで考えなければなりませんので、常に先生のいるクラスよりも自分たちで考える時間が取れ、そういった習慣が身に付くといった話があります。

委員 60ページに令和5年の小学校、中学校の予想される人数の見込みがあり、向田小は80人ですが、何とか1クラス、単学級ではありますが、第2案で小学校は現状維持で通学も近いところが望ましいのではという考えは、学校は地域のコミュニティの核であることも考えられておりいいのかなというイメージはあります。

ICTの整備が進めばリアルタイムに授業で交流することも考えられると思います。また、中学校については、深良中と須山中、富岡中の人数を見ますと須山中は51人と、かなり少なくなっており、部活の問題に関しましても、本当に限られています。例えば第2案のように3校を一緒にしたら生徒数が537人と一番大きな中学となりますが、東中、西中、北中と、もし新しい校舎を建てるのでしたら、運動公園の近くに建て、スクールバスで登下校すれば、昼間は運動公園を利用でき、そこで思い切りスポーツも

できますのでいいかと思ます。

そうすれば、深良から、須山から、富岡からも、同じような距離となり自転車で通える生徒もいるでしょうし、高校に進学するまでの一つのステップとしては、いいのではないかと思います。10年後を見据えていきますと、規模的には同じような教育環境を提供できるのではないかと思います。

委員長

統合案の数字だけを見て、これはあきらめなければならないという話ではなく、こういう学校ができたら、こういう教育ができるといった積極的なイメージを持つことは非常に大事なことと思ます。

委員

東地区・西地区については、3つの案を見てもそれほど遜色はないと思ますが、深良地区とか須山地区については、以前は同じ敷地内にありましたので、同じように考えて、施設一体型になるか施設併設型となり、職員間も交流ができるようになれば、子ども達の教育に関しては、いい教育を提供することも可能かと思ました。しかし、どう考えても富岡地区のところなかなか難しいと思ます。ただし、小学校区は小学校区でコミュニティがあり、維持していったほうがいいとの考えもありますが、中学の部活の問題については、根本的に1つの学校でいくつもの部活を持つという発想を変えて裾野市型の部活動のようなものを将来的に考えていくこと、今でも本校の野球部と富岡中の野球部は1・2年生の人数の関係で、合同チームを作って活動していますが、そのようなシステムが出来上がり、裾野市内の中学生が部活の時間を選べるような仕組みができましたら、部活の問題については解消できるかもしれないと思ました。

やはり、授業等色々なことを考えますと、小規模の学校では非常勤の先生や講師の先生が多くなったりと、非常に厳しい部分もありますので、施設一体型となって小中の交流があり、小中の免許があれば入れる、或いは小学校5・6年生に専科で入れるような仕組みが出来ていることが理想的ではないかと思ます。

委員長

中学校を統合しないとなった場合、部活もバラバラに小規模校も単独でという話だけではなく、色々な方法でこれまでできなかったことをフォローしていく仕組みを作っていく必要があると思ます。ただし、一貫校にして小中の先生方で、協力して専科をとすることは結構難しいと思ます。静岡大学附属教育学部の浜松小中学校もそのような形で、小中一貫校として合併することになっていますが、例えば中学校の全教科の先生をきちんと確保するとなると、結構難しい話となります。市の方で配慮して、人事交流を回しませんと、そういう先生が揃いませんので、アイデアとしては小中一貫校にして、5・6年も教科制として考えていくこともいいのですが、単学級の学校では、さすがにそれでも厳しいと思ます。

委員 どのくらいの教科ができるのかにつきましては、例えば音楽や美術などの教科でもいけるようになりましたら、特に小規模の中学では美術や音楽の専科の先生がなかなか配置できませんので、そこだけでも小学校と行き来ができれば、解消できる問題があるかと思います。

委員 深良中と須山中の問題は、この地域がそれほど人数が将来的に変わらない、須山は比較的不変なのではないかと思いますが、そのようになってくれば、今おっしゃられたように、昔は小中同じ敷地の中であって、そして校長が一人でした。ただ今、家庭科の先生とか、技術の先生とかは、兼務で学校をあちこちとっております。ですから、そのようなやりくりをすれば地域のコミュニティがさらにまた担保されます。しかし、人数が、同じクラスでも人数が少なくなるようでしたら、駄目だと思い、確かに同じ学校の中では、やりくりは難しいと思います。

委員長 他の色々な形で1学年1学級でいきますとなったときに、何とか上手く回すために、今のような小中一貫にしてという授業で、少しでもその環境を整えるという手段を考える必要があると思います。

こちらを優先してこのような案でいきますとした場合、それで駄目な部分については、このようにしてフォローする、先程の部活の話もそうですが、あきらめた条件に関しては他の方法で、なるべくカバーしていくということは必要かと思います。

したがって、そういうアイデアも出していただけるとありがたいと思います。

委員 コネクティッド・シティに住む人のことを考えますと ICT が充実していて、塾がいらない、将来に繋がるような学校があれば、飛びつく保護者はいるかと思いますが、自分の子どもが私立の幼稚園に通っているのですが、放課後に課外学習がたくさんあり、有料ですが、外部の講師を呼んで、英語や体育、美術、理科実験等を行い、結構人気があります。充実した学習ができるとなると希望する家庭はあるかと思います。

ただし、そういう特徴的な学校をつくと、昔からのその地域に根差した方たちが反対することも考えられます。

委員長 それは一つ大事な視点かと思いますが。浜松の方でも先端的な企業があり、海外からの研究者等にも来てもらいたいのですが、その子ども達の受けられる教育の受け皿がないということで、浜松へ行くことを渋るということもあるそうです。子どもの教育は、保護者の異動に影響しますので、ここになら来て安心という環境ができれば、それは一つの売りになると思います。

そのような学校とした場合、地域の方達にとって、そういう学校になってしまっているのかという難しい問題はあるかと思いますが、そういう一つの特徴をもった学校は、あってもいいかと思います。

今回、こういう形で1・2・3案と出てきますと、小学校と中学校は少し違う基準で考えることや、他にも色々と具体的な話もありますし、逆に小中で合わせて考えることにより、このようになるということもできますので、ここであがっている以外にも、このような考えでいけば、この条件、この教育環境は、すごく良くなるということで、ご理解いただければありがたいです。或いはその反対に、こういうデメリットをこういう方法で、解消できるという話があってもいいかと思います。

ただし、国の方針からいきますと ICT だけは早めに整備をしておく必要がありますので、要件として是非考えていただきたいと思います。少し前に報道されましたが、全国学力学習状況調査の問題もオンラインでの実施の話も出ていますし、PISA 調査もここ 2 回はオンラインを使った調査に代わっております。日本の子どもはコンピューターを使って回答すること自体が苦手のため、それで実際よりも学力が下がって見えているのではないかという話もあります。その点を国でも気にしており ICT 環境を整えて、子どもの学習のために ICT を使うことを当たり前とする話になっています。PISA 調査でも、日本の子どもは、家に帰ってからの勉強に ICT、タブレット等を使うことがほとんどなく、学校の宿題も基本的にそのような宿題は出しません。家でタブレット等を使用して調べものをするようになりますと、どうしても子どもの環境に差があるため、そのような宿題は出さず、今まで通りの宿題を出しています。そういう状況ですと、海外とは子どもの時点で差がついてしまうため、一人一台端末を配備し、家でも普通にどの子どもも十分使用できる環境を整えていくことになるものと思われます。そういったときには、市としても全体として動かなければいけません。実際には、ほとんどの学校でまとまって動く必要がありますので、少なくとも ICT に関しては、ある程度の規模で学校を回しませんが、何かトラブル等があったときに小さな学校では担当者がいなくて、完全に止まってしまうような、或いは上手く回せないことが懸念されます。

また、その話の延長として学習記録のデータで取っておき、それを AI 等で分析して、個々の子どもに合った教育の方法を考えるようなことも来年から国立教育政策研究所等では考えていくようになります。そういったときには、ある程度のデータ量がありませんと子どもの特徴等が掴めませんので、そうすると裾野市全体で一つのデータにまとめていくことも手段としてあると思います。学校の実態に合わせて、教育を行うということになれば、ある程度のデータ量は、必要となりますので、そのような全く別方向からの要請がでてくるということも 10 年後の教育の状況かとも思えます。

そういったことも、全部含めてどういう形で子どもの学習環境を整えるか、子どもにとって行きたい学校というものが、どういう学校かということを考えていただけるとありがたいと思います。

委員

色々と案がありますが、この案を考えたときに、60 ページに令和 5 年の各学校の児

童生徒数の資料がありますが、これが令和 10 年、或いは令和 15 年位までの推計といえますか、その通りにはいかないかもしれませんが、そういう数値を見ることも、これから検討する上では、必要な要素の一つになると思います。したがって、令和 5 年の数値だけではなく、是非もう少し先の児童生徒の数を出していただければ、少し見方が変わってくる可能性もあります。そのときに数字だけで判断するのか、色々な要素を考えて判断するのかということもあります。

委員長 実際建物を作る話まで考えますと、短期的な話ではなく、一旦建ててしまうと 60 年・70 年は使用することとなりますので、かなり先のことまで踏まえていかなければいけません。

委員 去年まで全校 80 人くらいの小規模校に赴任していましたが、やはり 1 年生から人間関係がずっと同じ環境で進むことが、子どもにとって上手くいっている学年はいいのですが、なかなか合う合わないがありますので、何か変化をするためには、1 学年 2 クラス以上あったほうが良いという保護者のアンケート結果は、その通りであると思います。

しかし、どうしても環境的に単学級になってしまう小規模の学校でも、学校を残していきたいという思いは、その地域にあると思います。小中一貫校として、そこに小中学校を残すこともいいかと思いますが、子ども達の成長段階を考えますと、小学校の 6 年間でしたら、まだ単学級としてもいいかもしれませんが、中学校では環境を変えてあげるといことで、新たなスタートが切れるという点を考えますと、やはりある程度まとまりのある中学校の規模を考えていくことが望ましいと思います。

委員長 中学校は前にも言ったように クラス分けを色々工夫したりすることもありますので、そういったことができませんと、かなり厳しいところもあるかと思いますが。

資料にもありましたが、段々発達が早く、自我の目覚めが早くなってきているということもありますので、人間関係がずっと固定のままでいいのかという問題はあります。

基本的に子ども自身は、自分の置かれている環境を、それほど嫌だと思わず調査しますと大体、自分の置かれている環境を肯定的に捉えます。違う環境と比べていませんので、子どもにはその辺が分からないのかと思います。

地域の学校は、もともとあちらを立てればこちらが立たずという関係になってとっていますので、そういうものである前提で、何を大事にして、あきらめざるを得なかった部分は、どういう方法でフォローできるかということ、考えていかなければいけません。色々な観点、例えばこういう場合にはこうしたらどうかということは、本日色々資料を出していただきましたので、非常にありがたいと思いますし、裾野市として教育のあり方を考えるという主旨からしますと、今後生まれてくる子ども達が、どのような教育を受けることが望ましいかということを考える必要があります。

委員　ここに1案・2案・3案とありますが、これをトータルでまとめて一つの案にしなければならぬのか、例えば児童生徒の人数が段々減ってしまい、ある地区では非常に小規模になったため、単独に行動していくとするのか、それとも裾野市全体として、個別に考えていかなければならぬとするのでしょうか。

委員長　学校一つ一つは全て個別ですので、個別に考えなければいけないと思います。
しかし、校舎を建ててしまってから、やはり止めてしまうということではできないと思います。

タイミングの問題も色々出てきますが、一方で校舎の問題もあります。いつでも好きなタイミングで学校のことを考えるわけにはいかないことが、今回の難しいところです。

委員　少し気になるのは、児童生徒の数だけ、建物や財政的なことだけで考えていくこと、先程一クラスですと、例えば人間関係でも問題が出てくると言いましたが、教育課程の中の開かれた学校であると、そういう方向へ向かっております。また、不登校等、クラスの中に入れないような子どもがいたときに、地域の皆さんがそこで関わる形、学校だけの問題でなく、地域で関わっていくような、そういう捉え方をしていきたいと、これからは上手くいかないような感じがします。総合的に色々考えなければいけないと思います。

委員長　結局どれを大事にしたいのかという話になりますが、裾野市は何を大事にするのかということをご自分で本当は考えたいことでもあります。

委員　人数が少なくなって幼稚園が1園なくなる、そういう可能性がある園があるというときに、娘が通っている園の先生が、もう少しその幼稚園とたくさん関わりを持って、その子たちとは、のちのち小学校で、もしかしたら一緒になるかもしれませんし、もしかしたら一つの幼稚園になるかもしれませんので、そうなったときのために、もっとこの幼稚園と関わってあげたいということをおっしゃっていました。そのようなことも考えて、色々な行事を組んでいただいているのだと、非常に感動しました。私の住んでいるところはありがたいことに、幼稚園、小学校、中学校が非常に近く、目に見えて自分がこのように大きくなっていくということを子ども達が多分感じており、うちの息子は、あまりにも校舎が大きいので、そこが高校かと思ったくらいで自分はそこの高校まで通うと言っていましたので、自分が大きくなっていくことを楽しみにしていることが素敵だと思いました。

以前、中学1年生の中1ギャップの問題で、不登校が増えてしまう時期があると伺い

ましたが、もしかしたら目に見えて進んで成長していく子が少ないのかと思います。実際、私は富岡地区に住んでいますが、富中の子たちに不登校が多いということは知りません。もしかしたら、そういうことが少ないと思うくらい子ども達が、その先の対応が分かっていること、心の大きさは素敵だと思いました。幼稚園の園児たちもその先の学校に対して負担を感じず、そのまま成長していることは本当にこの地域で子どもを育てられて良かったと思います。学校を統合する良さもあるかと思いますが、今自分の子どもはすごく心が安定しておりますので、そのことも是非踏まえていただきたいと思います。

委員長

環境という点では、近くに大学等が全くなくて、学生もいないという環境ですと、大学のイメージを持ってませんので、進学しようという希望があまり出てこないため、地域の格差が出てくるという話もあります。

とりあえず今回、学校を中心に色々と考えてきましたが、10年後、20年後には、地域も今の地域の状況ではないと思います。そのことも含めて考えることも必要になりますと、逆に地域をこうするために学校にはこうなっていてほしいというニーズも当然あるかとは思いますが、学校と地域は、お互いに頼る部分があると思いますが、とりあえず今回、第1案・第2案・第3案と事務局から提示していただいたおかげで、何を大事にすると何をあきらめなければいけないのかということが、大変分かり易く出たと思います。10年後、20年後の裾野市の教育環境がどうなってほしいかということ、これから我々はこういうイメージで考えたらいいですよというような提言をつくることになると思います。それを踏まえてもう少し具体的には、子どもや地域の変遷をこれから見つつ決めていくということになると思います。

ただし、こういう色々な形で率直にご議論いただいて、やはり色々大事にしたいものがありますが、なかなか両立は無理だというのが明確になってきましたし、その中で例えば、こういう方法とすればこのデメリットをある程度減らすことができるというような工夫をすることができるということも議論の中で、たくさん出てきました。あとはそれをまとめて、10年後、20年後の裾野市の教育をどのようにイメージするか、そのときにどんなことを踏まえて、そのイメージをつくるのかということ、次回皆さんとご議論したいと思います。

今回、色々なものが絡んでいて、どうすれば裾野市の子どもにとっていい環境になるにかということ、なかなか一筋縄ではいかないということ、よくご理解いただけたかと思いますが、それは、他の市民の皆様にもご理解いただいた上で、10年後、20年後の裾野市の教育をどうするのかという話に繋がらなければいけません。先程事務局からの説明で、最後に「お願い」があったかと思いますが、例えば「情報の公開」ですとか、「地域における懇談会等の設置」とか、「地域への配慮」とか、色々これから学校を支えてくださる方、或いは子どもを支えてくださる方にきちんとご理解をいただいて、選択をしていただけるようにしていかなければいけないと思います。今後学校を

再編するののかも含めまして、再編を進める上でお願いしたいことということについては、地域でも校区でも色々ご検討いただければとありがたいと思います。

そうしましたら、論点自体はかなり煮詰まってきた感じがします。あとはこれを受けて事務局で提言案を作成いただき、次回それを検討する方向でいきたいと思います。

(2) 次回委員会の開催日

説明者：教育総務課

次回の委員会は、3月30日（月）午後3時から 市役所4階402会議室にて開催。

【意見等】

委員長 そうしましたら、次回の委員会は3月30日の午後3時から市役所4階402会議室でお願いします。

予定されていましたが協議事項につきまして議論を終えましたので、議事を事務局にお返しをします。

6. 閉 会

教育部長

長時間にわたりありがとうございました。

次回の日程につきましては、3月30日（月）となりましたので、よろしくお願ひします。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。

以上をもちまして、「第4回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

16時45分 会議終了